

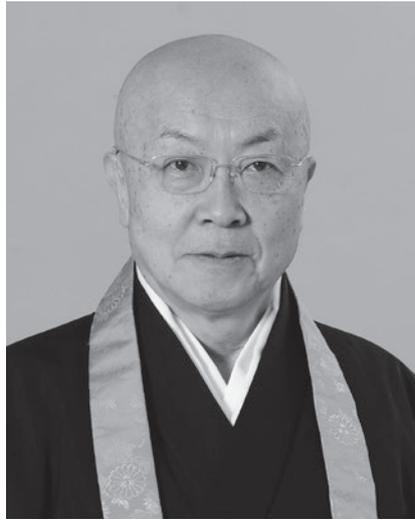


一般社団法人 大日本武徳会

会報 **武徳**

2019.10 秋季号





一般社団法人 大日本武徳会



第六回世界武徳祭への期待

濱田 鉄心

令和の時代の扉は時の流れと共に開かれた。しかし、世界における自国至上、かつ、保護主義的な動きや分断社会が台頭する新しい二十一世紀の国粋主義の勃発と、それに起因する多くの衝突や矛盾は、令和の理念と理想に程遠い現実の世界の様に思える。国家間の貿易摩擦や利害関係などの利権争いは、後を絶たない。不穏な国際情勢も、AIによる技術革新も、日々刻々と多様に変化している。それらは必ずしも人道的な幸福や安全な社会の建設的進歩に、正比例しているとは言えない。

そのような不確定な内外の情勢の中、本会は来年創立百二十五年周年の歴史を迎える事になる。振り返れば本会が結成された一八九五年四月十七日は、日清戦争講和条約が結ばれた日である。本会が日本武道史の中で輝かしく誕生したのは、その時代の国内外の必然的条件がそうさせたのかもしれない。それ以来、国内における本会の発展はめざましく、武道専門学校設立を初めとして国民の武道教育と、伝統文化の保存や啓蒙的普及に関して計り知れない貢献をなしたことは言うまでもない。しかし、我が国が国家間の紛争激動の過程を経て、その

選択を誤り、無残な太平洋戦争敗戦と無条件降伏に屈し、GHQによる本会の組織強制解散の運命に至ったことは、戦後歴史事実の示すところである。一九四六年の強制解散に至るまでの半世紀に及ぶ歴史は、正に栄光に始まり組織の崩壊という苦難で幕を閉じた悲惨な時代であった。

しかし、勇気ある先達の汗と努力によって新体制としての大日本武徳会を、いち早く立ち上げ武徳の伝統を再現するための運動が開始された。私達はその過酷な時代において、艱難辛苦を乗り越えてこられた多くの指導者や会員の皆様の事を、一時も忘れてはならない。一九五三年に再出発した任意団体大日本武徳会は、一九六二年ようやく第一回全国武徳祭を開催し、多くの有志が賛同して昭和の高度成長期の時代に初めて武徳殿に集結し、新しい武徳会の礎を発足させた。その後多くの困難な道のりを乗り越えて、二〇二二年に一般社団法人大日本武徳会となり、明治、大正、昭和、平成、令和へと力強く現在と未来に歩み続けている。国家が様々な時代を克服してきた過去百二十五年間の戦前・戦後の歴史と、本会が変貌を遂げてきた歴史に

は相通ずるものがある。ある意味では国家の運命と共に存在してきたとも言える。あらゆる観点から、これからの未来を考察するに、我々が継承してきた歴史的教訓は常に重く、また厳しくのしかかる。

本会が令和の所以に相応しい新しい時代の創建に向けて努力をするならば、日本の未来の新しい変化に貢献できることは間違いない。そういう意味で来年度の第六回世界武徳祭がもたらす意義は非常に大きく、同時にその成果が世界的なレベルで評価されることに、責任を感じなければならぬ。本会が創立以来目指してきた元来の主軸目的は、日本の伝統武道の保存継承と武道を通じた教育的価値の普及である。武道を通じた大会行事や国際的レベルの交流が、相互理解と友好親善を促進し、地球的な観点から実践されることにより世界の武道を志す人たちが真の日本精神文化をこよなく愛し尊敬して武徳の哲理を各国にて普及してくれば、自ずと令和の美しい花が世界中に咲くと信じたい。しかし、その花の種を植える事は至難の業であるし、育てる事もまたしかりである。

世界武徳祭は四年おきに開催され来年度で第六回目となるが、既に世界二十数か国から延べ数千人の武道家が過去に参加してきた。彼らが幾度となく日本に戻り毎回参加するのは、純粋に日本の武道精神とその神髄に触れることが目的である。老若男女を含めた熱心な国際部の武道家は、技の優劣に関係なく本会の会員であるという事に対する

名誉と誇りを実践するために、来年度もまた様々な犠牲を払って来日する。その誠意に対して本会は、会員一同が結束し全力を投じて彼らを迎え入れるために、努力しなければならないと考える。本会は四月二十八日ウエスティン都ホテルで開催される開会式において、武徳の平和的メッセージを世界に発信し、さらに旧武徳殿において、本部の先生方と共に世界中の武道家が武道の神髄に基づいた最上の演武を披露し、その純粋な喜びを分かち合う事を期待したい。

来年度は東京オリンピックとパラリンピックが開催され世界が我が国の文化に注目を寄せる。本会が誇りとする日本伝統武道の最高の祭典である全国武徳祭と世界武徳祭において、東京オリンピックに先立ちこれを日本伝統武道のオリンピックとして、その高潔で純粋な精神を称える機会となることを期待したい。

本会の創立百二十五周年記念という歴史的節目と新しい令和の時代にいち早く咲かせる希望と夢に膨らんだ花の美しさは、私達一人一人の献身的な努力と協力にかかっている。

最後に本会発展の為、温かいご協力とご尽力を捧げてくださる皆様方に厚くお礼申し上げます。



大日本武徳会 創立124周年記念

第57回 全国武徳祭

日時 平成31年4月29日 (月・祝)

午前10時

場所 京都市武道センター・旧武徳殿

主催 一般社団法人 大日本武徳会

後援 京都府 ・ 京都市

創立百二十四周年記念 第五十七回 全国武徳祭 表彰

● 団体最優秀賞

石川県 北陸連盟 修童館

● 個人最優秀賞 桑原兵充杯

大阪府 日本古武道 武公館道場 木下 公子

● 京都府知事賞

東京都 東京蘆洲會 柳 田 邦 治

● 京都市長賞

石川県 北陸連盟 修童館 長 田 順 一

● 団体優秀賞 【七団体】

大阪府 虚心流居合剣法 弓刀錬心館道場

京都府・滋賀県 一心無双流居合道 剣心会

三重県 古流無双直伝英信流居合兵法 神和会

大阪府 誠道館 虚心流居合剣法

京都府 至誠館

フランス 国際部 フランス支部

ロシア 国際部 ロシア支部

● 団体奨励賞 【十二団体】

京都府 日本武道空手協会

高根県 古武道 貫心流

大阪府 沖繩又吉古武道 光道館 大阪堺守礼館

大阪府 神伝円心流

茨城県 陽武館 市村道場

兵庫県 日本古武道直心会

● 団体努力賞 【十三団体】

愛知県 泰岳会

広島県 武心流空手道 継心会

大阪府 大誠会

兵庫県 心月無想柳流 古武道甲武館

千葉県 日本伝千葉一心無双流居合兵法 千葉剣心会

石川県 正伝長尾流躰術

愛知県 日本戸山流居合道

長野県 古武道 唯心会

大阪府 日本古式武道協会 拳正会

大阪府 水心流 楠誠会館

大阪府 日本古武道 誠慧塾

京都府 直伝円心流居合道

アメリカ 国際部 アメリカ支部

● 招待団体特別賞 【十四団体】

鹿児島県 薬丸自顕流顕彰会

京都府 宇治居合道研究会 登龍館

滋賀県 沖繩剛柔流空手道協会 順栄館 止観道場

大阪府 非営利活動法人 全日本伝統居合道連盟 明心館道場

三重県 新陰流兵法 碧燕会

大阪府 大阪修武会

福島県 新誠館

徳島県 誠正館抜刀術神伝流

愛知県 尾張錬駿館

大阪府 日本古武道 武公館道場

栃木県 無双直伝英信流 英信館

福岡県 西国柳生新影流兵法 錬心館
 兵庫県 修心流居合術兵法 修心館
 東京都 天心流兵法
 栃木県 柳生心眼流體術
 兵庫県 大日本敬天社道場 総本部 荒木無人齋流居合道
 岐阜県 柳生新陰流 志道館
 大阪府 関西大学体育会 古武道部
 京都府 立命館大学体育会 古武道部
 石川県 金沢工業大学 正伝長尾流躰術

●個人賞

【七名】

茨城県 水府流
 石川県 北陸連盟修童館
 大阪府 大阪修武会
 大阪府 大誠会
 大阪府 弓刀錬心館道場
 フランス 国際部 フランス支部
 ロシア 国際部 ロシア支部

落合春彦
 井本敏弘
 太田淳一
 村田雅人
 北川茂
 A. Cognard
 A. Arabadjiev

●奨励賞

【十二名】

茨城県 陽武館市村道場
 大阪府 日本古武道直心会
 京都府 日本武道空手協会
 愛知県 泰岳会
 大阪府 日本古武道 誠慧塾
 神奈川県 天真正伝香取神道流
 京都府 至誠館
 大阪府 日本古武道 誠慧塾
 愛知県 尾張錬駿館
 島根県 古武道 貫心流
 フランス 国際部 フランス支部
 ロシア 国際部 ロシア支部

安藤恒肇
 中 藤 夫
 齋 木 泰 徳
 石 原 朋 英
 樋 口 友 視
 岩 田 一 政
 高 木 宏 造
 橋 本 孝 生
 加 藤 敏 夫
 松 本 秀 邦
 M. Dossola-Paviot
 D. Ivanov

●努力賞 【二十二名】

京都府・滋賀県 一心無双流居合道 剣心会
 島根県 古武道 貫心流
 大阪府 神伝円心流
 三重県 古流無双直伝英信流居合兵法 神和会
 三重県 古流無双直伝英信流居合兵法 神和会
 徳島県 誠正館抜刀術神伝流
 広島県 武心流空手道 緹心会
 長野県 古武道 唯心会
 大阪府 水心流 楠誠会館
 京都府 直伝円心流居合道
 大阪府 武徳和魂会 心傳流柔術
 兵庫県 心月無想柳流 古武道甲武館
 福島県 新誠館
 神奈川県 日本空手道 松濤會
 京都府 至誠館
 大阪府 誠道館 虚心流居合剣法
 京都府 天然理心流
 栃木県 無双直伝英信流 英信館
 大阪府 国際部
 フランス アメリカ支部
 フランス 国際部 フランス支部
 フランス 国際部 フランス支部

西村竹生
 玉木久男
 水谷文美
 青山智子
 松永浩子
 平岡謙康
 安田謙吾
 高橋拓哉
 渡部達也
 酒井善宣
 浅野善裕
 青木克憲
 佐藤正典
 土屋恭之
 渡邊祥正
 米澤裕正
 竹内裕美
 鈴木美香
 坂本俊一
 J. Williams
 F. Palazzolo
 G. Cadetdu

【剣道の部】

●優秀賞

福岡県 無双直伝英信流

●奨励賞

千葉県 日本伝千葉一心無双流居合兵法 千葉剣心会

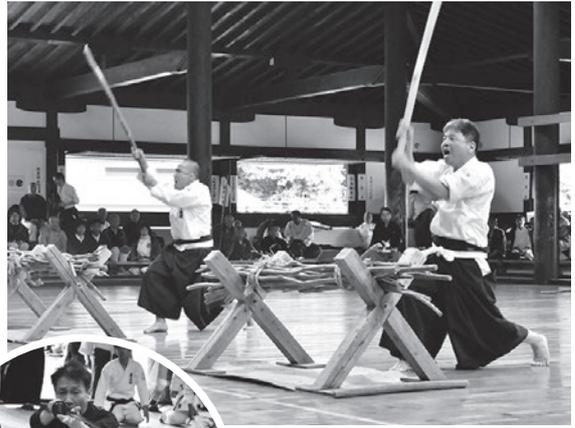
●努力賞

愛知県 泰岳会
 大阪府 水心流 楠誠会館

小林信之
 嶋田翔悟

杉生 闌 祐
 村上 亨





御礼の御挨拶

創立124周年記念第57回全国武徳祭も皆様の多大なるご協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。

ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

大会 参 与

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体 (順不同)

御 芳 名	御 芳 名	御 芳 名
濱田 鉄心 (国際部) 様	柳 田 邦 治 様	北 川 茂 様
山 本 楠 城 様	株式会社 東山堂 様	木 下 公 子 様
藤 井 正 巳 様	桶 田 正 信 様	樋 口 友 視 様
安 達 正 純 様	西国柳生新陰流 西田 浩三 様	森 内 一 藏 様
中 田 武 太 様	登龍館居合道教室 様	齊 藤 勝 則 様
村 上 亨 様	順栄館止観道場 様	西 村 悟 様
貫 心 流 様	桑 原 兵 充 様	深 野 良 興 様
村 山 盛 哲 様	竹 田 豊 様	西 村 義 行 様
杉 生 闡 祐 様	杉 野 至 寛 様	神 和 会 様
坂 本 俊 一 様	岩 田 一 政 様	荒木無人斎流居合道 早淵 鯉将 様
伊 藤 學 様	小 松 秀 敏 様	明 心 館 様
宮 園 國 男 様	市 村 章 様	明倫産業株式会社 様
株式会社 六盛 様	石 本 一 平 様	

団体最優秀賞

団体最優秀賞を受賞して「武徳の和」

北陸連盟 修童館 長田 順一

春光天地に満ち青葉風薫る候。本年四月二十九日「第五十七回全国武徳祭」が開催されました。今回の武徳祭は、平成最後となる大会です。

北陸連盟修童館は、故中田大作先生が昭和四十四年小松市上小松町に「こぼと保育園」を開園されました。中田大作理事長・素園長お二人と少人数の保母さんとの開園されました。その保育園遊技場が道場発祥の地です。現在は、中田武太先生が理事長として七十余名の保育士が勤務する石川県内でも有数の保育園になっています。

全国的に武道家として名の通った中田大作先生の元に近隣から武道を学びたいと数名の青年が集まり古武道道場が生まれました。五十年前になります。青年が学ぶ道場に、保育園を卒園した小学生も武道を学びに来ます。「こぼと修童館」が誕生しました。その頃は、剣道・居合道・銃剣道・槍術と多様な稽古が行われていました。銃剣道では、還暦を過ぎた先生に挑みますが木銃で軽くあしらわれ中々、銃剣が届きません。昭和の良き時代の厳しい稽古でした。そんな中でも数名が荒稽古に耐えて、先生の助教師として小学生の指導にあたりました。

数年の修行を経て中田先生からお話がありました。「ようやく人前で演武できるような腕になった。今度、京都で全国武徳祭という大会がある出場できるように手配するとの言葉でした。そして参加したのが四十年前以上の「全国武徳祭」です。その頃、青年だったメンバーが道場主、指導者として今回の大会にも数名参加されておりました。その頃盛んだった剣道の試合には、落合春彦先生のお顔も見えました。お互いに年齢を重ねたものだと感じています。

今年の北陸連盟総会が一月十四日に開かれ中田武太会長から、今年の平成最後の全国武徳祭への全員参加が求められます。「修童館も昨年三名の入門者を迎え

たが、指導者の高齢化が進んできた。平成最後という記念すべき武徳祭の参加を各自が目指して欲しい」とのお言葉です。女性の中には「もう人前の演武は無理です。無理な理由が色々出ます。先生は、道場武道訓を例に挙げ「一日一歩向上します」目標を持ち日々過ごすことの重要さを論ざれ全員納得です。

それから、武徳祭に向けて稽古が始まりました。武徳祭に何十年参加しても、日々新たな気づきがあります。今まで稽古中のお喋りが多かった女性たち、毎週の一時稽古があつと言う間に終わると言うくらい集中しました。

北陸連盟は、居合道・槍術に分かれての演武です。演武者全員が一同に会して演武稽古するのは、当日の武道センターでの一回だけでした。石川県各地から、そして福井県、大阪府からのメンバーもいます。道場の集団稽古では、個々の力を集団の力に替えることが求められています。日本人が得意とするスケート競技、リレー競技で見せた団体力で演武します。個々がバラバラで演武するのではなく、力あるものは弱者を引っ張り、弱者は与えられた使命を果たすべく努力をするのが基本にあります。失敗も成功も個々のものでなく全て団体の結果を出すのが修童館の根本精神です。と口で言っても実践では、難しいことです。

表彰式で、団体最優秀賞「北陸連盟・修童館」と発表があつた時は、皆さん驚



きの表情です。返事するのを忘れるほどの驚きでした。その後にじゅわつと喜びが湧きます。個々に、あそこでミスをして申し訳ないとさつきまで謝っていたメンバーも顔がほころびます。

閉会式後に受賞記念の写真を撮って頂きました。その写真が私たちの気持ちとお考え下さい。有難う御座いました。

最後になりますが、全国武徳祭参加の皆様方、本部先生方にお礼申し上げます。令和という時代が始まりました。これからも皆様方一人一人のご努力で「全国武徳祭」が末永く続くことをご祈念申し上げます。

個人最優秀賞

感謝

武公館道場 木下 公子

第五十六回全国武徳祭に於いて、個人最優秀賞を賜り、総裁様並びに濱田代表理事、本部諸先生方に心より厚く御礼申し上げます。思いもよらぬ過分な賞に大変恐縮しております。居合道を四十年余り続けてきたことに対するご褒美と思ひ、今後の糧として気を引き締め、日々修行して参りたく存じます。私にとりまして何よりもうれしい受賞となりました、誠に有難うございました。

顧みますと、故三浦武之師範に師事し、早や四十年余り。日々の修養と共に先ずは基本、基本の中に道はあると教わり、基本に忠実



に修行を続けて参りました。三十五年前より初心者の指導はお前がするんだと指示され、今に至っております。基本の指導の積み重ね、それが師範の私に対する指導方法であり、師範は黙ってそばで見守って下さいました。

今は亡き師範のお心に感謝する次第です。

その修行を続ける日々の中で、当流派の奥深さ、又無駄のない、自然な水の流れるような動きを体感、理合の何たるかを理解できたような、居合道の素晴らしさに触れたような気がしております。

まだまだ修行の道は半ばではありませんが、いただきました賞に恥じないよう精進して参ります。

本部の諸先生方、事務局の皆様には年間行事を通し大変なご苦勞がある事と存じます。大変お世話になっております事、この書面をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

一般社団法人大日本武徳会の益々の発展を心より御祈念いたしまして感謝の言葉とさせていただきます。

京都府知事賞

京都府知事賞を頂いて

無雙直伝英信流 東京蘆洲会

柳田 邦治

第五十七回全国武徳祭の各演武が無事終了、私が納めの儀の責任を何とか果たして、恒例の個人、団体の各表彰の集合の時第一番に京都府知事賞の氏名発表で、私の名前が呼ばれ全く青天の霹靂の思いで、一瞬返答が遅れました。全く予期せぬ受賞にて今だに信じられぬ思いです。

居合道に入門して五十五年余、様々な人間関係、そして様々な事象を経験して参りました。

幸いにして私は良き師匠に恵まれて入門から十年余り、川久保滝次先生に、先

生亡き後は岩田憲一先生に、同じく亡くなる迄御指導戴きました。

大日本武徳会には故、森中正勝先生に誘われて、大阪の谷山先生と共に入会後に、京都の一色先生が入会しました。この三人は皆同じ岩田門下です。岩田先生は研究熱心で理論家でした。

計らずも演武会の前日、高段者の審査会で、武徳会代表理事濱田先生が、受審者各位に注意点として発した言葉は、礼式、態度、理合、目付け、間合、残心、等々の注意をなされて、さすがですねと感心致しました。私も充分気を付けて演武する様に致します。

何はともあれ八十三才の私に、例えお情けであっても、有難度く拝受致し良き記念、記録となりましょう。

京都府知事賞に御推挙下さった各位に心から御礼申し上げます。

そして私に少しでもお手伝い出来る事があればお役に立ちたいと思います。最後に一般社団法人大日本武徳会の発展を心からお祈り申し上げます。

団体優秀賞

団体賞受賞について

神和会 代表 山口 峻輝

第五十七回全国武徳祭において、団体賞及び個人賞を二名が戴き、大変光栄です。有難う御座いました。

私がこの道に入門した時、師の河野百錬先生（無雙直伝英信流第二十代宗家）より、

「居合の本義は『正・速・強・威』ですよ。心して錬磨しなさい。」

と教えられた事を思い出します。

正Ⅱ流儀の掟に従い、流儀の形を「正」しく身につける事

速Ⅱ形の上の業の理合を知り「運剣の速度」を早くする事。

強正と運劍の速の上に斬撃の効果を十分ならしめる為、当りの「強み」を錬磨する事。

威正速強を得て、格調の高き無限の品位と風格ある境地に到達する事。師の教えに答えられる様、「威の位」に少しでも近づける様、今後も努力します。良い同志に恵まれ、同志と共に錬磨に励んで参ります。今回の受賞、有難う御座いました。

個人奨励賞

奨励賞をいただき思うこと

尾張錬駿館 加藤 敏夫

第五十七回全国武徳祭において奨励賞をいただき身に余る光栄であります。あわせて団体奨励賞もいただき感謝と御礼申し上げます。

振り返ってみますと二十六年前先輩に誘われて軽い気持で尾張錬駿館道場を訪ねました。

そこには鈴木東駿先生、滝尻先生、若林先輩他が道着に袴姿で真剣な眼差しで刀を振って居られました。

日本古来の武道に取組んで居る武姿サムライに衝撃的な感動を受けた事を思い出します。その場で入門をお願いし仲間の一人に入れていただきました。そして初めて武徳祭で演武したのがついこの間の様な気がします。

鈴木先生亡き後滝尻先生の指導を仰ぎ本年一月より不詳私が館長を務める事になりました。記念すべき今回の武徳祭において奨励賞を賜りました事は感激の極みであります。有難う御座居ました。

全国武徳祭に思うこと

虚心流居合剣法 山本 勇

この度、第五十七回全国武徳祭が開催され、私は、演武参加と微力ながらも大会実行委員として参加させていただきました。開催及び運営に当たられた代表理事をはじめ、各本部役員先生方のご苦勞とご努力に対して心から感謝いたしたいと思えます。

さて、本大会を振り返り、印象深く思い出されるのは、ある瞬間、私の気持ちの中に「武士」の言葉が浮かんだことです。本大会は「武士」の大会であり、演武内容は「武道」そんな思いが私の中で想起しました。「武士」に対して無礼な言動は許されません。実行委員として注意する際にも丁寧にお伝えすることを心掛けました。

流石に、「武士」の先生方、丁寧に対しては丁寧に戻していただきました。この空気、伝統、文化は大切に、そして伝承していかなければとつくづく感じた次第です。

令和二年は、盛大な世界大会が開催されると聞き及びます。私も一人の「武士」として参加し、お役目が果たせるよう頑張らなくてはと、早々と心を弾ませております。

第五十七回 全国武徳祭を終えて

至誠館道場 高木 宏造

大日本武徳会創立百二十四周年 第五十七回全国武徳祭に於きまして、僭越ながら、この度、奨励賞の栄誉を頂きました。誠に光栄の極みであります。これも

一重に代表理事濱田鉄心先生をはじめ、諸先生方の御尽力の賜物であると、感謝と御礼を心より申し上げます。

大会当日は私も、表彰委員、受付、そして雑用等、様々な形で微力ながら、お手伝いをさせて頂きました。未だ未だ未熟な所も沢山有り、貴重な教訓とさせて頂く一日となりました。

今年元号が平成から令和に変わると言うことも有つての事でしようか。出場される団体の先生方も例年よりも多く、武徳祭も大きな飛躍を遂げるものにした。いという濱田代表理事をはじめとする何揺るぎない一念が感じられるものでした。そんな中、今年出場された宗家の招待団体の先生方の演武を観させて頂きましたが、諸先生方の心・技・体の整った流れる様な動きの演武が印象的で大変感銘を受け、心に響く貴重なものでした。

私自身も修業の道半場の身では有りますが平常心を保ち、自分自身を見つめ直して行きたいと思えます。

第五十七回全国武徳祭

一心塾 松本 和清

創立百二十四周年記念、第五十七回全国武徳祭に東伏見慈晃総裁を迎え開催されました。各武道を愛する方々が、この歴史ある武徳殿に、各方面、外国より多数お集り頂き、各部門で日頃鍛練された技を披露され誠に見答えのあるものでした。濱田鉄心先生が言われる様に日本伝統武道の素晴らしさは競技による勝敗を究極の目的とせず、その過程で常に、自らの限界を克服し、克己することを重要視するという精神、気迫と残心が込められた、奥深い静と動の美はたいへんな見答えのあるもので、毎回において感動させられています。全体的に見ては各部門で年配の方々多く、これからは裾野を広げ、若い世代に感心を持ってもらおうように努力して行きたく思いました。世界を見渡しても、各地でテロや戦争の国もあります、各人、人それぞれ、色々な考え方が違いますが、この武道の精神を通し、少しでも平和で住みやすい地球になれば幸いに思っています。

検証委員を体験して

尾張錬駿館 加藤 敏夫

第五十七回全国武徳祭において検証委員を務めさせていただきました。初めての経験であり、かなり緊張の中での責務でしたが今迄に感じた事の無い気持ちで各演武を拝見する事が出来ました。

「礼に始まり礼に終る」演武する人の一挙手一投足を今回ほど真剣に観察眼をもつて拝見させていただいたのは初めてです。

各先生方の良きところは後輩、館員への指導等に参考になさせていただくべく良い経験をさせていただきました。

今後とも武道執行専門委員の一員として恥ずかしくない行動に邁進して行きたいと思えます。

武徳祭をふり返り

奥村 明夫

創立百二十四周年記念第五十七回全国武徳祭が大会役員の方々の努力により盛大に開催されたことを心よりお喜び申し上げます。本大会において、管理運営委員として微力ながら武徳祭運営に貢献できたことを光栄に思っております。

また、各団体の迫力ある演武にも日々の稽古の様子がうかがえ、その成果には圧倒されるものがありました。まだまだ自分の未熟さ、稽古に対する姿勢を今一度考えさせられ、初心に返り基本に忠実に稽古に励むことの大切さを教えられた心に残る大会でありました。

後になりましたが武公館道場師範であります木下先生が本大会において栄誉あ

る個人最優秀賞をいただかれたことは門下生一同の喜びであり誇りとするものであります。
 会員皆様におかれましては今一層精神の鍛練、武道への情熱を持ち高度な技の習得に努められることを期待しております。

実行補助員を拝命して

一心無双流居合道剣心会 中野 秀人

この度の第五十七回全国武徳祭におきまして、実行補助員として、微力ながら本大会の運営に参加できたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。

事前にいただいた実行委員および補助員の名簿を拝見すると、大日本武徳会の錚々たる先生方のお名前に続いて私の名前が記されており、恥ずかしいことではないとの思いを強くしました。

初めてのことであり、何をすればよいのか詳細がわからず、少々不安がありました。当日の打ち合わせの際に、実行委員長の本橋城先生から、具体的かつ丁寧に御説明をいただいたことで不安もなくなり、しっかりと勤めしようとの心構えができました。

割り当てられた時間には、所定の位置につき、周囲に注意を払ってまいりましたが、想定されていた、無許可で写真・ビデオ撮影をしようとする者や、大会に相応しくない行動をとる観衆等はありませんでした。整然とした運営がされており、観衆も含めた全国武徳祭に参加する方々の意識が、年々向上していると思えました。

無事に任務を終えて感じたことは、本大会が最高の格式をもつ演武会としてますます発展するよう、本会役員の先生方や関係の方々ともに、私としてもできることをしていきたいとの思いです。今回は、私に、こうした機会を与えていただきありがとうございます。

「武徳祭祓いの儀」を終えて

北陸連盟 修童館 長田 順一

武徳祭での祓いの儀の連絡を受けて、色々熟慮致しました。

全国武徳祭と言う演武大会で演武場を祓い清めるという神事の依頼です。

旧武徳殿は、武徳会創立百二十四年、そして戦後復興した全国武徳祭も五十七回の歴史ある会場です。数多くの先人が京都武徳殿での演武・稽古を目指している武道界の聖地でもあります。

よく地鎮祭という言葉聞きます。建物を新しく建てる時、土地の氏神をお鎮めし、お許しを頂き、無事を祈る儀式です。土地の四隅に青竹を立て注連縄で囲って祭場とし、斎主たる神職がお祓い致します。平安神宮での祈願祭がそれに当たります。その時行う演武は演武者の代表として武術を演武する奉納演武となります。

一方、武徳殿で祓いの儀・納めの儀は神事の一環となり演武者は、神職代行の立場となると思います。四方祓いは多少宗教的行事になります。演武場を祓い清めて演武関係者の安全祈願の意味合いが含まれます。武道家が刀札をして、帯刀して演武するようになったのは先人が剣の技、剣術ではなく、明治期に剣道に替わったこと、「剣術から剣道」に由来すると思えます。

四方祓いを神事と考えると、作法が生まれます。四隅を祓う順序も正面を北側としますと北東・南東・南西・北西の順番に祓って行きます。祝詞を奏上することはありませんが「祓い戸の大神たち、祓い給え、清め給え」の心持ちが必要となります。

今回のご連絡を受けて、まず自分がその気持ちになれるか自問自答しました。

中田大作先生の命日である三月二十六日に墓参りにしてご報告ご相談を致しました。(平成十八年の九十九歳九ヶ月で逝去・大日本武徳会より十段位允許)

北陸連盟を開かれた中田大作尊師に師事して、五十年余りの古武道人生ですが、日々の生活に追われ中々武道家としての心情に至りません。道場での稽古、青少年を指導する稽古、そして全国大会に参加した時が多少武道家になれる機会です。

中田先生と交流の中で、試合に臨む心構えをお聞きしたことがあります。人生には色々な戦いがある。試合に臨む前には、身を清め下着を新しい物に取替え不覚を取った場合には、戻れぬと言う気構えが必要である。もちろん試合前の集中した実践稽古も必要である。その言葉は、戦前の御前試合で優勝された時の心持を話しておられました。「今日の試合が最後。心残りのない準備で臨め」

今回は、事前に色々計画し祓いの儀に臨みました。新しい下着に着替え、平安神宮には、開門時間の早朝六時に参拝。真刀の下げ緒を祓いの儀用の白下げ緒に取替え刀の手入れをします。諸準備を終えて何時も通りの朝食を頂く。思いのほか気持ちの高ぶりも少なく平常心を保っていることに驚きです。

(しかし、道場仲間から見ると怖い顔に見えたと後日談もありました)

開会式をどの位置で迎えれば良いか、何か決まり事があるかの疑問もありましたが、作法通り朝日の入る東側入場口で控えます。開会式の終了前に南側入場口に移動し案内を待ちます。開会式参加の多くの方々が一斉に控え場に戻られ直前を通過されます。国際部メンバーの控え席が南側入り口付近にあり、一人一人が礼をされ通られます。日本選手には少ない作法です。返礼も必要となりますが全ての方々に返礼が難しく時間も掛かります。演武場外回廊に控えていれば、との考えがよぎりました。

祓いの儀については、全国武徳祭の安寧を祈り丁寧に祓いの儀を致しました。

私の思いは、帰宅しました折、北陸連盟会長「修童館」館長の中田武太先生に報告させて頂き今後の、武道人生の糧にしたいとお話致しました。中田先生から「今回のことは、先に帰った他のメンバーから聞いている。思い悩むな、本部から京都市長賞を頂いたことは、今までの武徳会への貢献、そして今回の大会に関する評価と考えると、今後の武道人生を歩んで下さい」とのお言葉です。

足腰が衰え、槍や刀が重くなり扱えないようになっても、その時を乗り越える工夫をして武道人生を歩めればと考えます。今後は、口喧しい指導者にならないような気配りも必要と思います。

武徳会会員の皆様、今後ともご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

新陰流にとつての武徳祭

新陰流兵法 碧燕会 横田 正和

正統新陰流の印可は、尾張藩にて第十九世柳生嚴周まで受継がれ、その長男柳生嚴長は、武徳会全国各府県中央講習会講師でもありました。私の師は柳生嚴長より教えを受けたので、その縁の武徳会主催の武徳祭への出場は、光栄の至りです。近年はインターネットの普及等で、当流における情報も多く得られるようになりましたが、その全てが正しいとは限らず、そのような中、当会は演武において如何にして新陰流の片鱗を顕わすかを重視しました。短い時間の中での表現は困難であると考えておりましたが、反つて集約した表現となりました。また、全員が協力して時間の無駄を省くことで一体感が生まれ、演武の為の稽古も含めて、多くを学び、貴重な経験をさせて頂くことが出来ました。最後に本大会に出場する機会を与えて頂いたことに感謝致しますと共に一般社団法人大日本武徳会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

古流としての薬丸自顕流

NPO法人 薬丸自顕流顕彰会 理事長 薬丸 兼弘

この度、大日本武徳会創立百二十四周年記念、第五十七回全国武徳祭が荘厳に執り行われましたこと、心よりお祝い申し上げます。

本文の寄稿にあたり、平成最後の演武を大日本武徳会の役員の皆様、そして演武にご参加された各流派の先生方と共に当流の披露が出来ましたことを、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

薬丸自顕流は薩摩という独特な地において編み出された剣術であり、その理念

においても薩摩の気風が色濃く反映され、防御の技すらも無い正に裂帛の気迫を持って不屈の精神で立ち向かっていく質実剛健の剣術でもあります。

当流の先人達が様々な困難や内憂外患といった時勢を、薩摩古来の郷中教育の中で必死三昧の境地で当流を叩き上げてきた往時を偲び、現代に生きる私どもはこの薩摩に伝わる伝統を次世代に紡いでいくべく日々練成することこそが最大の任であると考えております。

私ども同門一同は、貴会が担われておられる大切な役割に心より敬意を表すると共に、微力ながらも貴会に寄与すべく精進して参る所存で御座います。末筆ながら貴会の一層のご繁栄と各流派の皆様方のご活躍を祈念し結びの言葉とさせていただきます。

「創立百二十四周年記念

第五十七回全国武徳祭」へご招待を受けて

西国柳生新影流兵法 鍊心館

館長

西田 浩三

この度は平成最後の記念すべき「創立百二十四周年記念第五十七回全国武徳祭」へご招待頂き有難うございました。

お声を掛けて頂いた時より、歴史有る武徳殿で演武させて頂ける事を大変嬉しく思っております。

当日は七十団体の皆様がお集まりになる盛大な大会で、身の引き締まる思いを致しました。

九州ではお目に掛かることのない流派様も多数参加されており、良い刺激と古武道の奥の深さを感じておりました。

海外の武道家の皆様は、武道への熱心さは基より礼節や作法が身に付いており、感心させられる事ばかりでした。

この様な大会や国際交流は、互いに良い刺激となり切磋琢磨でき今後の修行に一層の身が入ると思っております。

大会での時間は基より、新幹線の往復約六時間が武道の話で盛り上がりアツク言う間で、門人共々楽しい時間を過ごさせて頂き有難うございました。

この場を借りて、大日本武徳会様並びに準備運営にご尽力された皆様に改めて感謝申し上げます。

全国武徳祭への参加を

更なる自己研鑽への糧とする

金沢工業大学 体育部会 正伝長尾流銃術部 三回生

佐野 幸洋
川尻 登生

昨年に引き続き、この度も全国武徳祭という非常に伝統のある大会に招待して頂いたことを部員一同大変喜ばしく思います。我々、金沢工業大学正伝長尾流銃術部は部員全員が大学から古武道を始めており、至らぬ点も多いですが日々研鑽を積んでおります。それ故に、今回拝見させて頂いた他流派の先生方の業の数々に積み上げられた研鑽の歴史を感じ、魅入ってしまいました。そのような先生方が参加される中で恐縮ながら自分たちの演武を披露させて頂き、有難く思います。ここで得た経験を活かし、日々の鍛錬をより有意義なものにして、業の練度を向上させてゆく所存です。

最後に、今大会を主催された一般社団法人大日本武徳会様、そして運営のためにご尽力された諸先生方に感謝の念を述べると共に、皆様の益々の御健闘をお祈り申し上げます。

私が見た武術の趣

関西大学体育会古武道部 岡崎 哲太

先ず始めに創立百二十四周年記念第五十七回全国武徳祭に招待して頂き、この行事に携わった関係者の皆様にお礼を申し上げます。私を含め、関西大学体育会古武道部の部員にとって良い経験となりました。

私自身はこの領域に足を踏み入れてまだ一年の身であります。しかし、古武道の伝統を受け継ぎ、伝えていく立場として臆することなく本番に臨みました。七分という限られた時間で参加団体の皆様は今までの人生を表すかのような密のあふる演武をされました。私たちの伝統も七分以上の密度で伝えることが出来ていれば幸いです。

最後になりますが、実は私の母も演武を拝見しておりました。話をすると何をしているか分からないと言われました。私は演武を拝見してイメージを膨らませておりました。武術に携わる者には見ええない戦いがそこにはあったと確信しています。是非、次回も皆様の戦いを参加者として拝見したいです。

『平成最後の…』

柳生心眼流體術 高橋 慶太

このたびは全国武徳祭にご招待いただき、ありがとうございます。

新元号発足の直前、世の中では「平成最後の…」というフレーズが各方面で飛び交っておりますが、私も柳生心眼流體術荒木堂においては、このたびの第五十七回全国武徳祭がまさに「平成最後の演武」となりました。歴史ある武徳殿での演武、平成の最後を飾るに相応しい会場で演武させていただくことができましたことを、改めて感謝申し上げます。

演武順が後ろの方であったため、武徳会の会員の皆様、並びに私どもと同様にご招待を受けた方々の気合いの籠った演武も数多く拝見させていただきました。私どもの今後の稽古の糧とさせていただきます。私どもの演武もまた、御列席の皆様の心に残るものであったなら幸いです。またお招きいただき機会がございましたら、再び武徳殿で演武させていただきますように思います。

最後に、武徳会の会員の皆様のご多幸と、武徳会の更なる発展をお祈り致します。

全国武徳祭

天心流兵法 師範 武井洋樹霧月

平成最後の大日本武徳会創立百二十四周年記念、第五十七回全国武徳祭の開催誠におめでとうございます。

当流は伝系を異と致しますが、江戸中期以降に関西にも伝承されており、縁浅からぬことと存じます。

現代でもまた縁を頂き、師家名代として深謝致します。

演武の前日に京都の散策をして、そこに息づく伝統を見るにつけ、我々も連綿と繋いできた武道、武術の道を絶やすわけにはいかない思いを新たに致しました。

私が抱いたそんな思いを武徳会の皆様は更に強くお持ちなのだ、寒空の中に響く裂帛の気合、空気を割く刃鳴の音、立ち居振る舞いより感じた一日でございました。

当流は神奈川県を活動の拠点としていきますので、初めて目にする流派も多く、とても有意義な経験をさせていただきました。

新たに参ります令和の時代も、微力ではございますが門人一同で古武術の啓蒙へ取り組んでいきます。

最後に武徳会の益々のご発展をお祈りさせて頂き、末尾とさせていただきます。



高段者審査会 合格者

居合道

六段 小田尚幸

六段 落合剣匠

六段 坂口直美

七段 高木宏造

七段 石原朋英

七段 小林信之

七段 梅田史記

七段 樋口友視

七段 橋本孝生

七段 東出廣志

八段 落合春彦

八段 太田淳一

空手道・古武道

七段 中西智美

八段 中田浩大

前夜祭



国際部錬成大会



第五十七回全国武徳祭記念 国際部錬成大会を觀戦して

心傳流 高島 伸幸

国際部錬成大会は、偶然にも平成最後の日である平成三十年四月三十日に行われました。私は光栄にも大会を觀戦する機会をいただきましたが、その様子は武徳殿に住み着いた武神が、「最も修行した異国の武道家達にこの大会を行わせしめた」と言っても過言ではないのではと高揚感を覚えた立派な大会でした。その高揚感が冷めないうちに、觀戦した感想を記させていただきます。

大会参加はフランス、ロシア、アメリカの三支部で参加者の人数こそ少ないものの、開会式に集合した参加者の全身に漲る気迫は、あまたの武道家が武徳殿に宿らせて立ち去った魂と融合するが如くであり、荘嚴な雰囲気にも包まれた中で大会は行われました。

演武においては、技の練度は高く心技体のバランス良く、流れるがごとき技は見る側も気を抜こうものならば打ち据えられるのではと緊張する程でありました。演武者は日本の武道を深く理解されている事は明白ですが、技には祖国の国柄や文化が色濃く内在されていると考えられる所も多々あり、改めて武道の国際化について深く考えさせられました。フランスのモダンでエレガントな技の中に、ロシアの勇猛果敢で質実剛健とも言える技の中に、アメリカの伝統を守りながら大胆に新たな境地に求める様な技の中に、自らの武道を極めようとされている様子が目に浮かぶようでした。

大会終了後の片付けをする時等の平穩そのものという空気に包まれた時を経て、退場後の深閑とした武徳殿では、十分に満足したであろう武神らの魂が、去り行く異国の武道家達の背を暖かく見送り、再びこの聖地に戻ってくることを心待ちにしているだろうと確信しました。





第3回 伊勢神宮奉納 古武道演武大会



日 時： 令和元年 5 月 26 日（日）
11 時 20 分より

場 所： 伊勢神宮「内宮参集殿」

主 催： 一般社団法人 大日本武徳会

第三回伊勢神宮奉納古武道演武大会を振り返って

濱田 鉄心

令和の時代の幕開けと共に伊勢神宮内宮参集殿における奉納演武大会が、無事滞りなく見事に修了出来た事は実に喜ばしい事でありました。神楽殿における特別大大御神楽は、伊勢神宮で日本の古代より脈々と続いている神聖な伝統祈願であり、その清々しさは我々に心の静けさと安寧を与えてくださいました。連日の猛暑で熱中症や体力的な維持が懸念されていましたが、参加者の皆様は厳しい暑さにも臆することなく、日頃切磋琢磨されてきた素晴らしい技と気迫のこもった精神を立派に奉納されたと思います。内宮のお能舞台はひたすらに幽玄の世界であり、そこで奉納された武士の魂は、その幽玄が醸し出す高次元の精神的根幹を生み出し、遙か森の彼方におわす恐れ多くも天照大神様へのもとに届かんと祈願するものでした。それは我々が生かされてきた事への感謝であり、今年もまた武道家としてその謙虚な奉納の営みが成されたという事は、未来への無病息災の祈りと感謝に繋がるということでもあります。

奉納演武の後、五十鈴川にて精神を統一して手水の禊を共に行い、祈りを込めて御垣内参拝をご正宮にていたしました。

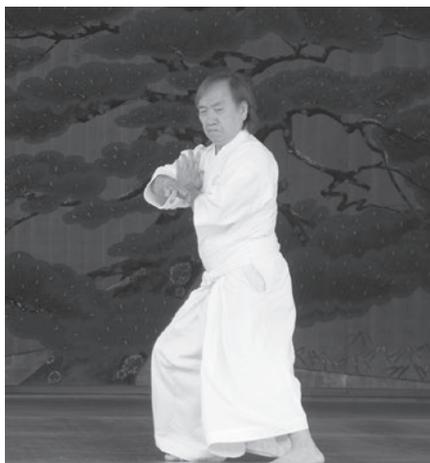
今年の第三回伊勢神宮奉納古武道演武大会において、本会の先生方が誠心誠意努力をされたことに、改めて深く感謝申し上げます。本会

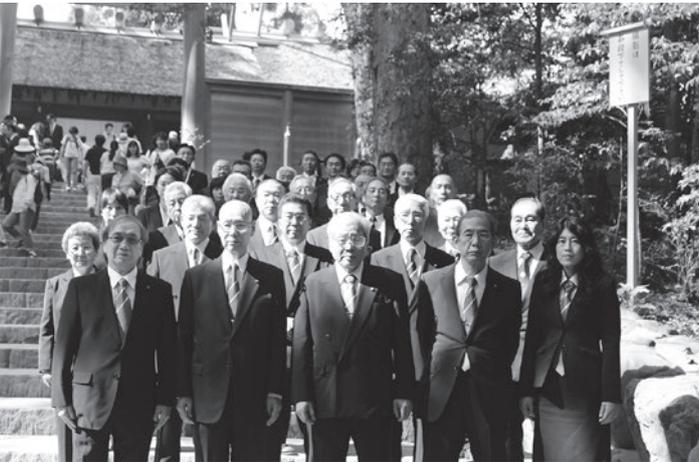
にとりまして伊勢神宮内宮における奉納演武大会が実施されることは、私達の歴史と哲理を顧みるに極めて重要であり大きな名誉であります。これからも、この素晴らしい深遠なる伝統が、本会の会員によって伊勢の神々がおわす山々と風と一体となり、令和の時代に美しき武徳の花を咲かせる事が出来ますように祈らずにはられません。

本大会の実行にあたり、伊勢神宮宮掌、菱川由貴様をはじめとする神宮の皆様にご協力頂き厚くお礼申し上げますと共に、桑原兵充副総裁並びに本会役員、会員各位、職員、全ての皆様の温かいご尽力と熱意に深く感謝申し上げます。



伊勢神楽殿 PICTA ユーザーNo.1060897





撮影 齋木泰徳

第三回 伊勢神宮奉納古武道 演武大会報告

虚心流居合剣法 山本 楠城

平成の御代も改まり、令和元年五月二十六日、伊勢神宮内宮参集殿において第三回伊勢神宮奉納古武道演武大会が行われました。

伊勢神宮内宮神楽殿における特別大神楽のご祈禱、参集殿においての奉納、さらに皇大神宮の垣内特別参拝とすべての行事が、大日本武徳会にとって、極めて貴重、名誉なことであり、綿密、慎重な打ち合わせの上、役員、参加の先生方一同身を引き締めて大会に臨みました。

午前八時三十分頃、役員、担当者集合、諸準備を整えた後、午前九時三十分、参加者全員参集殿前に集合、集合写真を撮り神楽殿へ向かいました。

神楽殿では優美な倭舞、厳かな人長舞、舞楽からなる特別大神楽のご祈禱を受け、高雅な幽玄の世界を経験させていただくことができました。

午前十一時前、御神楽が終了し、神楽殿前で全員記念写真を撮影の後、参集殿に集合、大会開会式が行われました。

開会式は、竹田大会実行委員長の開会宣言に始まり、濱田大会委員長挨拶、大会実行委員長の演武上の注意等があり、また開会式終了後演武開始前に、礼節を特に尊ぶ大日本武徳会の趣旨目的を徹底するため、団体長が能舞台に集合し、さらに礼式、作法等の説明を受けました。

午前十二時、参集殿能舞台にて演武開始。参加団体は十九団体、総参加者四十一名。樋口友視先生の荘重な祓いの儀に始まり、濱田鉄心先生の盤石かつ研ぎ澄まされた演武に続いて、居合道、古武道、空手道、柔術等、各武種の先生方による、気迫のこもった迫真の演武が進み、最後に悠揚迫らざる渡邊祥正先生の納めの儀によりすべての演武が終り、山田大会検証委員長の講評、濱田大会委員長の閉会の挨拶で午後二時大会終了となりました。

閉会式終了後、五十鈴川の御手洗場での手水お清め、皇大神宮への正式御垣内参拝と、私語を一切慎み、厳粛に参拝した後、一同揃って参集殿へ戻った上、解散となりました。

御礼の御挨拶

第3回伊勢神宮奉納古武道演武大会も皆様のご協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。

ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体・企業 (順不同)

御芳名	御芳名
桑原 兵 充 様	濱田 鉄 心 様
竹田 豊 様	至 誠 館 様
山本 楠 城 様	坂本 俊 一 様

総じて真夏日の暑さであったにもかかわらず、厳粛かつ気迫あふれる演武とともに粛々と大会及びその他の諸行事が成功裡に行われましたことは、神宮での奉納という名誉もさることながら、諸先生方の大日本武徳会における日頃の求道姿勢の賜と感謝、御礼を申し上げます。以上、大日本武徳会のみならずの発展を祈念しつつ報告を終わります。

古武道のすばらしさを実感

一心無双流居合道剣心会
総師範

山田 文典

地球温暖化の影響か、五月とは思えぬ暑さの中、第三回伊勢神宮奉納古武道大会に参加させていただきました。同大会は、今年で三度目の参加でありましたが、検証委員長という大任を仰せつかり、今まで以上に身の引き締まる思いがいたしました。

日本古武道を奉納するとともに、参拝者へ大日本武徳会の武道精神を示す意義ある大会として、万一の不測の事態に備えると、各団体先生方の演武は勿論、所作、礼法にいたるまで目が離せぬ緊張の時間を過ごしました。

席に着き、目前で繰り広げられる先生方の素晴らしい演武に見とれてしまうこともしばしばありました。

大会を終えて閉会の講評の機会をいただき、

- 演武は言うに及ばず、所作、礼法は極めて立派であった。
- 事故や苦情申し立て、体調不良など無かった。
- 各団体、全て時間内の演武が終了した。

の三点を申し上げました。

来年は、国際部の外国人武道家に参加されると聞いておりますが、古武道を含め武道をする外国人は日本人の中に一部見られることはよくある光景ですが、全員が外国人でしかも何百という大勢が行う奉納演武は、本会の存在価値を大きく示す大会になると期待しております。

今回は、強い日差しの中、時折、境内を吹き抜ける爽やかな風を受けながら、古武道のすばらしさを実感する充実の時をおくることができました。ありがとうございました。

令和元年の神宮にて

日本古武道誠慧塾

樋口 友視

異常な高湿気象が続く令和のはじめの神宮の森、それでも木陰は凜とした空気が漂っていた神宮の森。この度、三回目の伊勢神宮奉納古武道演武大会に参加できる機会をいただきました。ありがとうございました。

そんな中、事務局より祓いの儀実施のご要請がありました。身に余る栄誉と重圧でしたが、あえて挑戦させていただく覚悟を決めました。

先師、三浦武之先生から入門間もなく言われた以下のことばを心に留め演武を行いました。

——樋口さん何のために道場に来ているの？上級者の方から指導してもらうのはありがたいと思いつつとことん稽古して下さい。

今日の演武大会は樋口さんの為だけの場として考えなさい。一般の観客もあなた一人を観に来ていると思いなさい。報道関係者も、あなたを目的に来ていると思つて稽古の成果を存分に発揮して神宮に奉納して下さい。——

当日は参拝のお客様が大変多く、宇治橋からご正宮まで人の波が途絶えることがありませんでした。

「祓いの儀」という最初の演武ということで、大多数の参拝客の方々は一様に足を止めて見入っていることがわかりました。おそらく参拝客の方々は思いもかけず、神宮の森で、古武道という非日常に触られたのでしょう。

令和という新しい時代になって、はじめての奉納演武大会で最初の祓いの儀の機会を与えていただき大変清しい気持ちで思う存分、ご正宮に奉納することができました。

この機会を与えていただいた大日本武徳会の関係者の方々、そして道場の仲間
に感謝申し上げます。

ありがとうございました。



第24回 全国青少年武徳祭



日時： 令和元年7月14日（日）

午前11時

場所： 京都市旧武徳殿

主催： 一般社団法人 大日本武徳会

後援： 京都府・京都市

第二十四回 全国青少年武徳祭 表彰

● 団体最優秀賞

大阪府 日本古式武道協会 拳正会

● 団体優秀賞 (二団体)

京都府 至誠館

● 団体奨励賞 (二団体)

京都府 形意和真流唐手道 武学館

石川県 こばと修童館

● 団体努力賞 (四団体)

大阪府 日本古式武道 武公館道場

京都府 日本武道空手協会 正守和道塾

大阪府 水心流 楠誠会館

愛知県 日本戸山流居合道

● 個人賞

● 個人最優秀賞

石川県 こばと修童館

中田 花

● 個人優秀賞 (四名)

大阪府 日本古式武道 武公館道場 菅田 晴日

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 水野 太一

● 個人奨励賞 (三十二名)

京都府 至誠館 野本 真由
 京都府 日本武道空手協会 正守和道塾 近藤 佑樹

大阪府 日本古式武道 武公館道場 福本 誠英

京都府 形意和真流唐手道 武学館 四方 星凜

京都府 形意和真流唐手道 武学館 後藤 瑞來

京都府 形意和真流唐手道 武学館 小泉 美咲

京都府 形意和真流唐手道 武学館 藤原 芙光

石川県 こばと修童館 中谷 心美

石川県 こばと修童館 松田 暖生

石川県 こばと修童館 山岸 大真

石川県 こばと修童館 中村 姫梨

石川県 こばと修童館 横井 鉄也

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 鈴木 竜之助

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 袴田 直

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 清水 麻琴

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 清水 健士朗

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 赤堀 匠海

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 榎原 輝

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 柴田 修翔

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 南 妃咲

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 水野 里紗

● 個人努力賞 (その他五九名)

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 鹿嶋 柚太
 京都府 日本武道空手協会 正守和道塾 菅野 翔真
 京都府 日本武道空手協会 正守和道塾 渡辺 虎太郎
 京都府 日本武道空手協会 正守和道塾 中村 琉樹
 京都府 日本武道空手協会 正守和道塾 片山 仁
 京都府 至誠館 伊藤 結月
 京都府 至誠館 榎原 優那
 京都府 至誠館 稲見 光馬
 京都府 至誠館 磯好 愛莉
 大阪府 水心流 楠誠会館 渡邊 大也
 大阪府 大阪修武会 厚見 心汰
 京都府 一心無双流居合道 剣心会 秦野 静
 小田 朱乃

大阪府 日本古式武道協会 拳正会 十八名

京都府 形意和真流唐手道 武学館 十二名

京都府 至誠館 九名

石川県 こばと修童館 七名

京都府 日本武道空手協会 正守和道塾 六名

大阪府 日本古式武道 武公館道場 四名

愛知県 日本戸山流居合道 二名

大阪府 水心流 楠誠会館 一名

第二十四回全国青少年武徳祭報告

至誠館 渡邊 佳代子

令和元年七月十四日(日) 京都市旧武徳殿において、本会の主催事業である第二十四回全国青少年武徳祭が挙行されました。大会当日は、居合道、空手道など県内外の古武道流派十六団体、九十八名が日頃の鍛錬の成果を披露しました。

大会に先立ち平安神宮において、荘厳な中に奉告祭が執り行われました。御祭神の祝詞奏上に続き、神前にて居合道のこぼと修童館中村姫梨選手、空手道の拳正会清水健士朗選手が緊張の面持ちで、高い精神性を感じさせる所作をはじめ、古くから伝わる技が奉納されました。青少年武徳祭の参加者代表としての意気込みが感じられる素晴らしい演武でした。大会役員をはじめ参列者一同、濱田大会委員長の玉串拝礼に合わせて、大日本武徳会の繁栄と武徳祭の成功を祈り合いました。

午前十時五十分各団体参加者一同は、武徳殿東側からプログラム順に団体ごとに整列し、午前十一時濱田大会委員長を先導に東伏見大会会長がご入場され、上村検証委員長の太鼓の音が殿内に響き渡り、厳粛な中に開会式が行われました。開会式では、先人に感謝し、世界の平和と大日本武徳会の更なる発展を祈念し、黙祷が捧げられました。大会会長により大会に向けての祝辞が述べられ、また、竹田大会実行委員長より演武上の心がけについて述べられ、昨年度団体最優秀賞の拳正会から団体最優秀賞杯が返還され、観客の見守る中、至誠館の渡邊大也選手による選手宣誓が行われました。濱田大会委員長の開会宣言によって演武が始まりました。はじめに祓いの儀が行われ、居合道においては、至誠館の野本真由選手、空手道においては、正守和道塾の近藤佑樹選手によって、四方祓いを以て演武場が清浄されました。

どの団体も気迫あふれる演武が披露し、参加者にとって互いに良い刺激をもた

らす大会となりました。

参加全団体の演武終了後納めの儀が行われ、居合道においては、武公館道場の菅田春日選手、空手道においては、武学館藤原美光選手が大会の最後を締める演武をしました。

閉会式では、団体賞と個人賞が手渡されました。名前を呼ばれた時に大きな声で返事をしてくれる様子から、この大会に自分の全力で向き合えたことの満足感が感じられました。この大会に参加したこと、何らかの得る事がそれぞれにあったのではないかと思います。

御礼の御挨拶

第24回全国青少年武徳祭も皆様のご協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体
(順不同)

御芳名	御芳名
濱田鉄心様	桑原兵充様
中田武太様	山本楠城様
竹田豊様	藤井正巳様
木下公子様	株式会社ライオンズ旅行企画様
株式会社ハトヤフーズ様	有限会社ギフト大洋様
株式会社図書印刷同朋舎様	





支部だより

一般社団法人大日本武徳会大阪府支部

平成三十一年

住吉大社奉納演武大会開催さる

大阪府支部長 村田 雅人

一般社団法人大日本武徳会大阪府支部住吉大社奉納演武大会が平成三十一年三月二十四日(日)、本部ご後援のもと住吉大社境内、住吉武道館にて開催されました。

〔祓い・玉串奉奠〕

当日早朝、住吉大社神楽殿において演武の無事遂行を祈願し、お祓い、神楽舞ならびに大阪府支部長 村田雅人、本部長 山本楠城先生による玉串奉奠がなされました。

〔奉納演武大会〕

続いて住吉大社境内住吉武道館にて奉納演武大会が開催されました。剣道場には国旗と住吉大神の書軸ならびに住吉大神の画軸が掲げられ、誠に神々しい雰囲気の中、支部長の開会宣言に引き続き、国旗に礼、君が代斉唱、住吉大神前へに礼、ご来賓として公益財団法人住吉名勝保存会住吉武道館長 東郷信行先生のご出席を賜り、心のこもったご祝辞を賜りました。心より感謝申し上げます。

げます。また、代表理事濱田鉄心先生の心のこもったご祝辞(山本楠城先生代読)を賜りました。又、大日本武徳会本部より本部長、本会副支部長 山本楠城先生にご来賓としてご臨席を賜りました。更に、午後の来賓として辻野正勝先生ならびに川頭隆義先生のご臨席を賜りました。心より深謝申し上げます。また、千葉剣心会、村上亨先生のご参加を頂きました。

〔祓いの儀〕

無双直伝英信流居合範士八段 村田雅人支部長による祓いがなされました。

〔奉納演武・午前の部〕

- (一) 心傳流柔術…北野隆雄先生らによる例年通りのすばらしい心傳流柔術演武がなされました。また、いつもながらの十名の少年、幼年部の凛とした演武、かけがえない徳目が将来に引き継がれます。誠に喜ばしき限りと存じます。
- (二) 弓術日置流印西派巻藁体配…北川茂先生ご一門による装束を着装されての大弓神事演武、誠に格調高く立派な神事でした。
- (三) 神伝円心流組討兵法…森内一蔵先生ご一門による神事、試斬、居合組討ならびに唐手演武が行われました。据物斬りは座禅武道即仏道たる精神の体現ならびに唐手の演武は見事でございました。
- (四) 虚心流居合剣法…山本楠城先生ご一門によるいつもながらの重厚な演武、ご立派な華を添えていただきました。
- (五) 日置流半弓術…北川茂先生ご二門による日置流半弓術が演武され、いつもながらに練度が高く、緊張感みなぎる立派な演武でございました。
- (六) 素心流居合抜刀術…宮園國男先生による試斬がなされました。誠に豪快、大斬れの見事な太刀さばきで華を添えていただきました。
- (七) 無双直伝英信流居合…大誠会一門による初心者をお交えての居合、とりあえずは様になったようです。



(八) 虚心流居合剣法・弓刀錬心館道場北川茂先生ご一門による虚心流居合剣法が演武されました。錬度も高く立派でございました。

〔懇親会〕

今回は一階ロビーを解放、第一研修室にて懇親会を開催致しました。

〔奉納演武・午後の部〕

(九) 無双直伝英信流居合道・尾ノ上克己先生による年齢を感じさせない立派なご演武でございました。

(十) 無双直伝英信流居合兵法・誠慧塾樋口友視先生ご一門に立派な師伝に基づいた演武がなされました。

(十一) 日本伝千葉一心無双流無双流居合兵法、千葉剣心会、村上亨先生による古流に則った演武はご立派でございました。

〔納めの儀〕

神伝円心流組討兵法が範士八段 森内一蔵先生による納めの儀がとり行われました。

〔謝辞〕

大会の準備や進行、終了後の処理にご協力を頂きました武道館員の皆様方に深く感謝致します。

〔出席〕

演武参加者 五十一名（一般の部…四十一名、青少年の部…十名）

一般社団法人大日本武徳会の今後の更なる発展と各位の武徳に栄光あらんことを祈念申し上げます。乱筆乱文ご容赦下さい。



第二十五回

宮島嚴島神社奉納

古武道演武大会によせて

一般社団法人大日本武徳会公認

広島県支部

宮島嚴島神社奉納古武道演武大会

実行委員長

藤江 成美

令和元年六月二日、恒例の第二十五回宮島嚴島神社奉納古武道演武大会を世界遺産であります宮島嚴島神社の国宝（祓殿）にて開催いたしました。元号が令和になりまして最初の奉納演武大会でありました。新たな時代の幕開けに相応しい大会とするべく支部会員一同、準備に勤しんだこの一年でありました。支部活動としましては根幹をなす大会でありますので演武に向けての平生の稽古は無論常に本番を目標しての精進の日々を重ねつつ、大会に向けての啓蒙活動、関係機関各位への協力要請、本番を目標してのコミュニケーションを繰り返しながらの準備で有りました。

今大会は、関東以西より十八団体九十八名の演武参加及び四十七名のサポーターの臨席を頂戴し総勢百四十五名の大会と成りました。正午までに受付を済まされた参加者から着替え、少し早い昼食を済ませて頂き、正午より参加者全員での正式参拝を行いました。参加者を代表いたしました広島県支部より中丸大会会長、藤江大会実行委員長、本部理事竹田先生、大阪支部より村田先生、太田先生、森内先生、



関東より参加頂きました桶田先生の七名にて玉串奉奠を行い、お祓いを受けました。参加者全員が、お神酒うけお守りを頂戴し、大会会場であります国宝祓殿に場を移し、開会式を行いました。

開会宣言に先立ちまして昨年の西日本豪雨災害の犠牲者、これまで武道の発展に寄与された物故者への黙祷を参加者全員にて捧げました。実行委員長の開会宣言に続きまして中丸大会会長の大会挨拶、本部代表理事代行の竹田理事より濱田代表理事祝辞の代読を頂き、ご挨拶を頂きました。祝辞の最後は、大阪支部長の村田先生にお願いいたしました。森内先生をはじめ山本先生、太田先生、村田先生と大阪



支部の先生方には親しくご協力いただき感謝の念に堪えません。各先生方の祝辞を頂き、続きまして先の全国武徳祭の前日に行われました高段者審査会におきまして広島県支部中西会の中西智美さんが、空手道七段に見事合格されましたので証書の伝授を行いました。急遽名前を呼ばれ参加者全員の前で竹田理事より七段証書を伝授された中西智美先生の緊張した表情が微笑ましくも印象的でありました。その後、大会実行委員長の演武上の注意があり、参加者全員での記念写真を撮り、開会式を終えて演武開始と致しました。

演武のオープニングを飾って頂いたのは、今回この先生しか有り得ないと先の高段者審査会及び全国武徳祭で感じ入りました大阪支部、大阪修武会太田先生と御一門にお願い致しました。武人はこの様に歳を重ね常に精進有るべしと言うお手本をご披露頂きました。太田先生の気迫が演武者全員に良き触発を与えた様で有りまして前回に増して気迫あふれる演武が次から次と披露されていきました。神伝円心流森内先生の唐手柔術も初めてご披露頂きました。剣術の中に伝わる体術を皆興味深く見入っておりました。試し切りの師弟関係であります宮園先生と河村先生も手練の技で大会に花を添えて下さいました。お二人共に少し体調に不安を抱えての参加で有りましたが、見事に遣り終えて頂きました。演武後に控室でニト口を服用されたと後でお聞きし少し肝を冷やしました。

演武の取りは、開会式で祝辞を頂きました大阪支部長村田先生とその御一門にお願いいたしました。中国武術も修業されております先生独特の柔らかい動き、捌きには明らかに大陸の武術の影響を感じました。

十八団体流派の演武が四時には盛会にも滞りなく終了しまして閉会と致しました。閉会後は、最近恒例となっております神社近くの天婦羅処（津久根島）に場を移し、名残を惜しむ様に打上げの会を行いました。竹田理事は無論参加頂き、例年になく多くの参加を得まして、栃木から奥様同伴で参加頂きました桶田先生もお開きまで武道談議に花を咲かせておいででした。広島県支部の面々も日頃は、お話しできない先生方との交流を心行くまで楽しんでおりました。二時間余りの打上げの会でありましたが、この様な場であれば出来ない交流を体験し皆大変喜んでおりました。来年六月七日の二十六回大会の再会を約束して散会と致しました。

第二十五回

宮島厳島神社奉納

古武道演武大会の報告

竹田 豊

一般社団法人大日本武徳会公認、広島県支部主催、第二十五回宮島厳島神社奉納古武道演武大会は、令和元年六月二日（日）厳島神社祓殿に於いて挙行された。正午、演武者及び演武大会のサポーターが神殿においてお祓いを受けた。その後祓殿にて開会式が行われた。始めに藤江成美大会実行委員長の開会

宣言、続いて支部長中丸元夫大会会長挨拶、次に一般社団法人大日本武徳会濱田鉄心代表理事の祝辞を当方が代読した。藤江大会実行委員長の演武上の注意のあと集合記念撮影がおこなわれ演武が開始された。演武一番は、大阪修武会、太田淳一先生の無双流剣術である。体調不良にも拘らず演武されたことに頭が下がります。以後、貫心流居合神武会、武心流空手道継心会、北撰古武道会、中村流抜刀道悟道館、日本古武道直心会、神伝円心流、沖繩又吉古武道大阪堺守礼館、糸東流拳法空手道中西会、柳生新陰流兵法広島柳生会と続いたあと、十分間の休憩を取り演武が再開された。素心流居合抜刀術、兵庫正武館無双直伝英信流、一心無双流居合道剣心会、武心流空手道継心会・二部、無双直伝英信流・国府流英信館、神道夢想流杖術、土佐伝承無双直伝英信流理法塾、最後は大誠会・村田雅人先生の無双直伝英信流居合であった。閉会式に移り事故もなく無事終了したことが御祭神に御加護と感謝が伝えられ、藤江大会実行委員長から講評が述べられた。中丸支部長の閉会挨拶で第二十五回宮島厳島神社奉納古武道演武大会を締め括った。

今回特に印象に残ったのは、糸東流拳法空手道中西会並びに武心流空手道継心会の子供たちの深刺とした素晴らしい演武であった。これも偏に青少年たちを指導する中西会道場長・中西直直先生、同会師範・中西智美先生並びに継心会・藤本准三先生方の日頃から子供たちに対する熱心なご指導の賜物であると考え。子供たちが、さらに武道に励むことを期待するとともに、思いやりと謙虚さを備えた人間になることを願って止まない。